

第1卷 「甦えりの誦句 (朝旦偈辞)」

(S31年・神戸 41:18)

【track 1】 今日から向こう 11 日間、毎朝、朝の修行のとき、「真理瞑想行」というのをやります。この真理瞑想行という行の目的は、諸君の人生に対して厳格な自覚と反省とを促す目的で行われるのです。

諸君は遺憾ながら自分の人生に対して厳格な自覚と反省とを持たずして、この人生に生きてる場合のほうが多い。病のとき病を気にしたり、運命にこだわっている生き方は、結局厳格な自覚と反省とをおろそかにしている結果に生ずる心の現象だ。口癖に言ってるけれども、万物の靈長たる人間に生まれたお互いは、生きている瞬間瞬間の刹那を、その真本領^{せつな}を發揮して生きない限りにおいて人生は生き甲斐がないということを言っている。その真本領を發揮するには、心身の統一だということも講習会で飽きるほど聞かれている。そしてこの心身統一法の一番の基礎的なものは何だと言や、心というものをどんな場合があっても、消極的にしないことだということも飽きるほど聞いている。

しかしそれは、聞かされると同時に方法は教わっていても、一番根本のそれに関する悟りがひらけていないと、せっかく教わった方法も、ただ教わったままの方法を技巧的に行うだけになる。理解はもとより、心からピンボケになってしまってる。これはそういう人に限って病のときに病を気にしたり、運命としょっちゅう取っ組んで、組み敷かれている人なんだよ。だから、この真理瞑想行という特別の行を行わせしめて、お互いのおそらく誰でもが、まだ完全に理解していないであろうところの、人間の心と命との関係を、それから同時に、その命をつくってくれた造り主である大きな力の根本